

本本校ウエイトリフティング部が南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

第3種郵便物認可

南 日

練習に励む薩摩中央高校ウエイトリフティング部

＝さつま町



## 薩摩中央高重量挙げ部

# ファン獲得へ 地域交流に力

さつま町の薩摩中央高校ウエイトリフティング(重量挙げ)部は、地元ファン獲得に向けて地域交流に力を入れている。鹿児島国体に向けた強化が実り強豪校となった一方で、競技の認知度は依然低く遠征費の確保もままならない。部が発足して11年目。生徒らはバーベルだけでなく人気も上げようと、踏ん張っている。

## 地元企業も遠征費支援

同部は2013年に発足。伊東智人教諭(42)＝現鹿屋農業、県ウエイトリフティング協会事務局長＝の赴任がきっかけ。16年には国体の強化選手として鹿児島にやってきた金城聖丸さん(32)が外部コーチに就任、現在は監督を務める。昨年度は下大迫彩夏さん(現3年生)が全国2位になるなど、一気に名が知られるようになった。

部員は男女13人。九州、全国大会の常連となる一方で、課題は年間100万円ほどの遠征費の確保だ。学校から支給される活動費も、学校の定員割れが続いているため、減っているという。

そんな中、生徒たちは昨年10月、「町民らと交流する機会にもなる」と町の街頭調査に参加。遠征費確保も兼ねて、町内の物産館来場者に利用状況を調べた。

窮状を知り、支援に乗り出した企業もある。精米・販売の谷口商店(田原)は、部員の写真を袋に貼った5キロの販売を開始。売り上げの一部を寄付する計画だ。1月下旬には部員10人が写真貼りを手伝った。

下大迫さんのほか、2年の海端修生さん、上堀聖仁さんは今年10月の鹿児島国体への出場を目指す。海端さんは「支援はありがたい。活躍してさつま町をPRすることで恩返ししたい」。下大迫さんは「地元のみんなに応援してもらえるように今後も地域と積極的に交流していきたい」と話している。

(右田雄二)